



慶徳の名の基になった慶徳和尚が開祖の順正寺。住民の心の拠り所にもなっている

慶徳和尚の名に由来する校区名
慶徳 校区は、昔から職人や商人の町として栄えた歴史ある校区の一つです。交通センターや、市民会館、県民百貨店などがある賑やかな熊本の中心市街地ですが、一路地裏に入ると静かな古い街並

みが今でも残っています。慶徳の地名はおよそ500年前、戦国時代の高僧・慶徳和尚の名に由来するものです。慶徳和尚はこの地で順正寺を興しただけでなく、この地にあつた沼などを埋め立てて堀の形にし、治水を行ったと考えられています。現在も慶徳という名は町名に残り、小学校の名前へと受け継がれています。

屋などの店舗をオープンしたりしています。彼らが中心となって毎月開催されているのが「河原町アートの日」。若手アーティストなどが作った作品を展示・販売できるイベントです。学生など若者も多く訪れ、まちに興味を持つ人も増えています。

新・旧の住民を学校がつなぐ

も前からこの地域に住み続けている住民が多い慶徳校区ですが、最近ではマンション建設により若い子育て世代が新しく住民として仲間入りするようになりました。一方で、新旧の住民の間で地域に対する意識の違いも目立つようになってきました。そんな中、伊藤さんは「家庭に子どもがいて、その子どもが学校にいとPTA活動は必ずやるでしょう。そうすると自然と地域とも結びついていくもの。新旧の住民が織りなす新しい地域の仕組みに期待したい」



河原町の旧繊維卸商業共同ビルには、若手のクリエイターが集まり、新たな街が形成されている



まちの未来をつくるため、歴史を新しい感性で発信



夏休みに行われる「慶徳教育キャンプ」。白川で遊ぶ貴重な体験に子どもたちも大はしゃぎ